



## 2期生 (法学部/法律学科)

# 田畑 升護

### 何事にも全力、 エネルギッシュボーイ!!



## 01 生まれと育ち

**アクティブな少年期**  
1995年(平成7年)京都市生まれ、京都市育ち。小学生の頃に学童保育所で過ごし、キャンプやスポーツを多くしていた。そのことからアクティブな性格になり、何事にもチャレンジするようになった。長期有給インターンシップに挑戦しようとし、むすびわざコーオププログラムに参加したのもその一つだ。

## 02 大学生になってからのこと

**むすびわざとの出会い**  
大学1年生の頃、理想と現実のギャップに苦しんだ。大学生になる前は、ゼミ活動やサークルに打ち込み、大学生活を謳歌することを夢見ていたが、実際はそうではなかったからだ。出席するだけで、単位がもらえるゼミ活動。飲み会ばかりのサークル。そんな現実を知り、「俺は一体何に打ち込み、本気になればいいんだ!？」と思っていた。

そんな折、友人にたまたま勧誘されたのが、むすびわざコーオププログラム。それは、約4か月間の長期有給インターンシップに行くことを前提とした、3年間一貫の日本初の



## 03 長期有給インターンシップ

**「自分にとって仕事とは？」が分かった**  
2016年4月から約4か月間、長期有給インターンシップに参加した。インターンシップ先は、ユニクロ。そのインターンシップには店舗の課題発見と解決を目的に参加していた。なぜなら、実社会において活用できるほどの課題発見力・解決力を身に付けたかったからだ。

また、このことはむすびわざで活動していく上で、私にとって重要なことだ。なぜなら私は2期生の幹事長としてチーム全員のことを意識していく必要があるからだ。

チーム全員を意識し、むすびわざの活動をどれだけ価値のあるものにできるかは、「他者のために何が出来るだろうか」と相手の立場になって物事を考えることだと思ふ。就職をした後もこの考え方を持ちながら仕事をしていきたい。



## 04 これからのこと

### 相手の立場になって行動

人のためになることに全力で取り組みたい。素直にそう思う。きれいに聞こえるかもしれないが、何をやるにしろ、この意識が重要であると考ええる。損得勘定で行動することは、確かに合理的かもしれない。しかしながら、損得勘定だけで、自己満足な行動では、仕事を通して相手が求めることができないことを長期有給インターンシップで体験的に理解した。



## 伝えると伝わるの違いを実感

**20歳**  
むすびわざの活動でプレゼンテーションをし、伝えていたことが伝わらないことを実感。論理的思考とコミュニケーション能力が大きな課題として浮き彫りになった。この課題解決のため、むすびわざの活動に力を注ぎ始める。

## プロフィール

生まれも育ちも京都。「たばしょー」という愛称で呼ばれ続ける21歳。  
持ち前の向上心あふれる気質と明るさを武器とし、自分にできないようなことでも挑戦している。それは、人生のモラトリアム期と言われる大学生活の中で、猶予期間とは思われないような経験をし、少しでも成長できる期間にしたいと考えているからだ。そのチャレンジのうちの1つとして、長期有給インターンシップの参加を決意し、むすびわざコーオププログラムを履修した。

## むすびわざとの出会い

**19歳**  
大学生の実態に一度は失望したが、むすびわざコーオププログラムという日本初のプログラムに参加することで、大学生活が一変。17人の同期とともに切磋琢磨している。

## 花田 耀己 (3期生)

田畑さんは、きびきびした動きと的確な指示でむすびわざをリードしている幹事長でありむすびわざの顔。  
知的で気さくな性格は後輩から絶大な信頼を得ていると思います。

## 責任感を強く持つ

**11歳**  
小学生の頃、学童保育所でリーダー役として常に年下の面倒をみていた。具体的には喧嘩の仲裁やキャンプの実行内容を立案。その状況下で自分の立場を理解し、責任感を持った。

## 先輩・後輩からのメッセージ

### 西坂 真紀 (1期生)

2期生の幹事長である彼は、とても優しく繊細で人望があつい。  
また、このセミナーに対する愛情も深く、後輩へのサポートはもちろん、先生や1期生に対しても丁寧な気遣いができる。

